

CIM、BIMを着実に進展

伊田テクノス

埼玉県内の地場ゼネコンではいち早くCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）を導入した伊田テクノス（伊田登喜三郎社長）。BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）にも力を注いでおり、ともに導入してから約1年が経過した。小川詔夫専務取締役建設本部部長は「成果が出始めている段階。課題も多いが着実に進展させていきたい」と力を込める。

◆県内の先頭切るCIM

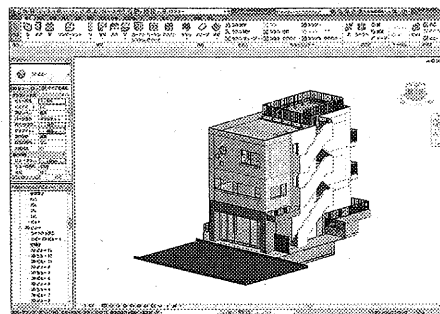
CIMは国土交通省が積極的に推奨している動きを踏まえ、埼玉県発注の処分場造成工事（寄居町、施工中）で初めて導入。「社長からCIMの重要性を強く指摘されていたところにちょうど適した案件があり、総合評価の技術提案に絡めた」と受注の経緯を振り返る。同工事で測量を担当する向井豪志氏は、3Dレーザースキャナー（GLS-1500、リース機）を使用した現況測量により、「測量の工程を従来に比べ9日間短縮し、早期着工ができた」と効果を



左から新井氏、小川本部長、向井氏

語る。施工に当たり、3カ月間かけて使用方法を習得した「Aut

提案力に磨きかける



BIM設計例（PC画面）

o CAD Civil 3D」（購入）で、3Dレーザースキャナーのデータを解析し、縦横断面図を作成するとともに、設計図面との合成で迅速、精密に土量計算ができ、「より本来の形状を反映した成果が得られる」との感触を得た。小川本部長は今後の展開について「費用負担とメリットを考慮すると、比較的、大規模な工事を中心に導入していくことになる」との考えを示す。

◆次は積算との連動

BIMは、設計の意匠で導入し

ている段階。『Revit（レビット）』を使い、1年間で、共同住宅や福祉関連施設など12件で図面を作成し、その中の7件は実際に顧客にプレゼンテーションし、うち3件を受注につなげた。建築設計室の新井裕介氏は「意匠の企画から実施設計、確認申請など基本的な流れを実施した。お客さまのイメージを膨らますことができ、一定の成果を得られた」と振り返る。

今後は「工事までいかにスライドさせていくかが課題」とし、小川本部長も「BIMと積算の連動が次のステップ」と見据える。最終的な導入目的である設計施工案件の受注拡大に向けては「設計、積算、施工部門がデータを共有し、リアルタイムで連携し合えることが条件となるが、時間がかかると思つ」とし、BIMによる業務改善を含めた環境づくりを模索している。

BIM、CIMともに「技術的には若手から若手に引き継いでいくことが求められている。一歩踏み出したところだが、中心となっている若手の習熟は早くも成果が出始めている」と手応えを語る。

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| ⑬ 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工 | | |